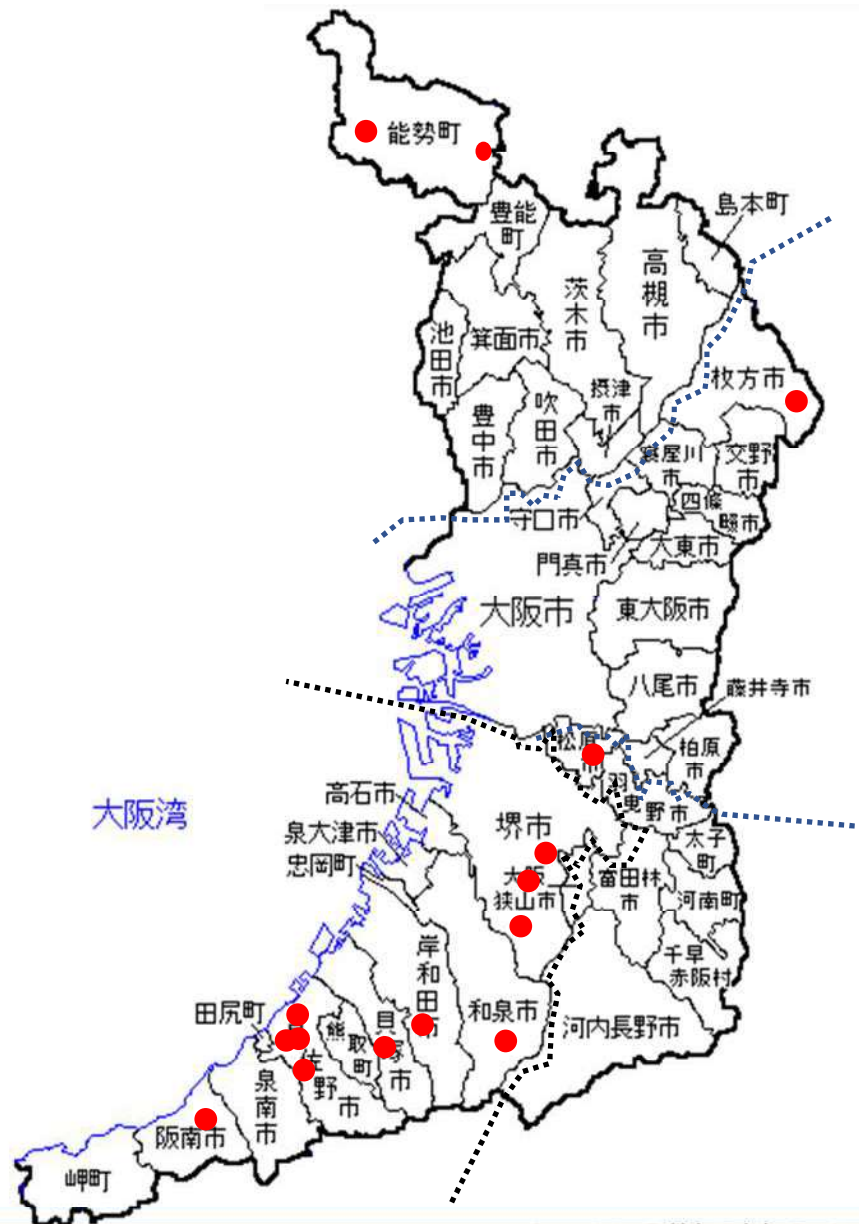


# 令和3年度資源向上活動取組地区





# 集落で行う農業用施設機能の維持・増進を図る取組

山間農業地域

## 資源向上取組地区

キーワード

農業用施設  
の機能増進

のせちょうにしちいきのうち・みずかんきょうほぜんそしき(おおさかふとよのぐんのせちょう)

### 能勢町西地域農地・水環境保全組織（大阪府豊能郡能勢町）

- 能勢町西地域にある19集落により広域組織を発足し、本交付金による活動を行ってきた。
- ほ場整備事業が完了して30年以上が経過し、農業用施設が老朽化してきたことに加えて、近年の豪雨による補修作業の増加が課題となっている。
- 各集落で農業用施設の草刈りや簡易な補修などの活動を実施し、施設機能の維持を進めてきた。また、令和元年度からは資源向上（施設の長寿命化）にも取り組み、施設の老朽化対策を進めている。

#### 【地区概要】 ※R3年度時点

- ・認定農用地面積291ha  
（田289ha畑2ha）
- ・資源量 水路173.6km  
農道35.2km  
ため池20箇所
- ・主な構成員 農業者、自治会  
土地改良区 等
- ・交付金 約13.7百万円（R2）  
（農地維持支払  
資源向上支払（共同、長寿命化））

#### 活動開始前の状況や課題

- 施設の老朽化に伴う維持管理作業の増加



- 豪雨による施設の補修作業の増加



#### 取組内容

- 施設の維持活動を集落ごとで実施。



（草刈の様子）

- 老朽化した水路を改修し、機能回復を図る。



（施工前）



（施工後）

#### 取組の効果

- 施設の維持活動により、修繕が必要な施設の発見、補修作業が容易になり、農業生産効率の向上も期待できる。
- 地域住民（非農家等）の参加により、農地等の有する機能・保全に対する意識が深まるとともに、農村コミュニティの形成に効果が見られた。
- これらの活動により、農作業の負担軽減が進むとともに、担い手への農地利用集積が期待される。



（景観形成作物（れんげ））



# 集落で行う農業用施設機能の維持・増進を図る取組

山間農業地域

資源向上取組地区

キーワード

農業用施設  
の機能増進

のせちょうひがしちいきのうち・みずかんきょうほぜんそしき(おおさかふとよのぐんのせちょう)

## 能勢町東地域農地・水環境保全組織（大阪府豊能郡能勢町）

- 能勢町東地域にある18集落により広域組織を発足し、本交付金による活動を行ってきた。
- ほ場整備事業が完了して30年以上が経過し、農業用施設が老朽化してきたことに加えて、近年の豪雨による補修作業の増加が課題となっている。
- 各集落で農業用施設の草刈りや簡易な補修などの活動を実施し、施設機能の維持を進めてきた。また、令和元年度からは資源向上（施設の長寿命化）にも取り組み、施設の老朽化対策を進めている。

### 【地区概要】 ※R3年度時点

- ・認定農用地面積254ha  
(田253ha畑1ha)
  - ・資源量 水路132.4km  
農道28.4km  
ため池30箇所
  - ・主な構成員 農業者、自治会  
土地改良区 等
  - ・交付金 約12.0百万円 (R2)
- ( 農地維持支払  
資源向上支払 (共同、長寿命  
化) )

### 活動開始前の状況や課題

- 施設の老朽化に伴う維持管理作業の増加



- 豪雨による施設の補修作業の増加



### 取組内容

- 施設の維持活動を集落ごとで実施。



(ため池清掃・泥上げの様子)

- 老朽化した水路を改修し、機能回復を図る。



(施工前)

(施工後)

### 取組の効果

- 施設の維持活動により、修繕が必要な施設の発見、補修作業が容易になり、農業生産効率の向上も期待できる。
- 地域住民（非農家等）の参加により、農地等の有する機能・保全に対する意識が深まるとともに、農村コミュニティの形成に効果が見られた。
- これらの活動により、農作業の負担軽減が進むとともに、担い手への農地利用集積が期待される。



(景観形成作物 (れんげ) )



ほたに

## 穂谷地区農空間保全協議会（大阪府枚方市）

- 大阪府の枚方市東部に位置する都市的地域の水田地帯であり、平成4年から16年頃にかけて枚方市により約17haの規模でほ場整備を実施。
- 穂谷地区の地域資源・環境保全を維持するため、地域住民の参画や地域外の団体や市民との連携が必要なことから、平成25年に設立。【会員54名】
- 多面的機能支払交付金の活用による各種保全活動に取り組みを通じて、構成員である穂谷地区・農業者・穂谷土地改良区が連携し、地域資源・環境の保全に向けた意識向上が図られた。

### 【地区概要】

- ・取組面積 : 26.54ha
- ・資源量 : 開水路6.8km  
農道5.4km  
ため池3箇所
- ・主な構成員：穂谷地区  
農業者  
穂谷土地改良区
- ・交付金：約1,680千円（R03）

### 活動開始前の状況や課題

- これまで穂谷地区における農用地・水路・農道・ため池については、農業者により単独的な保全活動が主であった。
- 今後、穂谷地区の地域資源・環境保全を図るためには、地域住民・都市住民の参画が必要である。



### 取組内容

- 穂谷地区の農業従事者及び地域住民の連携により、農用地・水路・農道・ため池の草刈や泥上げ等の保全活動を実施した。
- 農村文化の伝承を通じた農村コミュニティの強化として、「収穫の秋 穂谷」のイベントを実施した。
- R3年からは、施設の長寿命化を図るため、水路改修に取り組んでいる。



### 取組の効果

- 穂谷地区の農業従事者及び地域住民の連携により、遊休農地の発生を未然に防ぎ、農用地・水路・農道・ため池の適切な保全を図った。
- 「収穫の秋 穂谷」のイベントに多くの来場があり、穂谷地区の周知が図られた。



# 都市近郊における学習農園活動の推進

## 資源向上取組地区

みやけちくのうくうかんほぜんきょうぎかい おおさかふまつばらし  
三宅地区農空間保全協議会（大阪府松原市）

- 松原市三宅地区は大阪府松原市の北部にあり、大阪市に隣接した農業地帯である。都市近郊農業の立地を生かし、軟弱野菜やナス、トマトなどの野菜の生産が盛んである。
- 農業従事者の高齢化および担い手不足により、遊休農地が増加しつつある一方、地域内には高速道路が建設され、沿道開発が予想されるなど農地の改廃が懸念されている。
- 地域住民が一体となった地域農業の振興を目指すとともに、将来を担う子どもたちに、食糧生産や農空間保全等の大切さを認識してもらうため、遊休農地の一部を利用した学習農園事業に取り組んでいる。また、令和2年度より資源向上活動（施設の長寿命化）にも取り組む。

### 【地区概要】

- ・取組面積 15ha（田15ha、畑0ha）
- ・資源量 水路 5.0km、  
農道 5.5km
- ・主な構成員 土地改良区、JA、  
小学校 等
- ・交付金 約100万円（R02）  
（農地維持：45万円  
資源向上：約55万円）

### 活動開始前の状況や課題

- 土地改良区の資金を活用し約27haのほ場整備事業や水路のパイプライン化及び一筆給水整備を行ってきた。
- 農業従事者の高齢化及び担い手不足より、遊休農地が増加するとともに、都市農地の景観形成にも支障をきたしていた。
- 市街化の進展の中、都市農業を振興し、農地を地域全体で守る取り組みを進めることが喫緊の課題であった。

### 取組内容

- 地域住民や関係団体が一体となった、地域農業の活性化や農地の保全、景観の形成に向けた活動を展開。
  - ・草刈り、農道の補修、水路の浚渫
  - ・コスモス、レンゲの種まき、花の苗植え
- 松原市立三宅小学校において、遊休農地を利用した学習農園事業を展開。
  - ・学習農園のゴミ拾い、田植え、稲刈り、収穫祭、リース作りなど
- 資源向上活動（施設の長寿命化）により農道の舗装を実施



三宅小学校の学習農園活動（田植え）

### 取組の効果

- 多面的機能支払の取り組みは、これまで地域の交流・共同活動に参加していなかった人が活動に参加するきっかけとなっており、地域の活性化や水路、農道、ため池の計画的な保全管理や農地の保全に繋がる。
- 将来を担う子どもたちや、活動に関わった地域住民に対し、食糧生産の大切さや、農空間の保全について、意識付けることができる。
- 農道の舗装により、営農の効率化が図られ、地区の農地の保全が見込まれる。
- 地域住民による話し合いや、共同作業の重要性を認識するとともに、農地保全活動を通じ、農業振興や地域活性化の気運が上がる。

# 地域住民との連携による農空間保全

# 資源向上取組地区

とうききた

## 陶器北地域農空間保全協議会（堺市）

- 陶器北地区は、H19年度にほ場整備事業が完了し、土地改良区を中心に、農地や水路、農道等の保全管理をすすめてきたが、近年、農業従事者の高齢化や後継者の減少により、担い手の負担が増大し、継続的な活動に支障が生じていた。
- H25年度に関係自治会（陶器北）と土地改良区、近隣小学校、JAにより陶器北地域農空間保全協議会が設立され地域住民と連携した地域資源の保全管理を図っている。

### 【地区概要】

取組面積	32.34ha	[田31.01ha	畑1.33ha]
農業用施設	開水路19.6km 農道 26.4km	パイプライン0km ため池 3箇所	
主な構成員	自治会、土地改良区、農協、小学校		
交付金	956千円（農地維持） 1,158千円（資源向上）		

### 活動開始前の状況や課題

- H19年度にほ場整備が完了し、地元農家による営農が行われていたが、一部で遊休農地が発生したり、後継者の不足、担い手の減少等、今後の持続的な農地・農業用施設の管理が課題
- ほ場整備の完了から約10年が経過し、一部施設で不具合・老朽化が生じ、施設の軽微な補修・長寿命化が課題



### 取組内容

- 溝さらえや草刈りに加え、農道の路面補修や水路・会所柵の補修等を交付金を活用して実施し、施設の長寿命化を図っている。
- JAと連携し、地元小学校（東陶器小学校）の農業体験（田植え、稲刈り、新米を使った調理実習、しめ縄作り）等、交流活動による地域住民の理解促進に取り組んでいる。



### 取組の効果

- 土地改良区が中心となって各集落の状況を集約し、きめ細やかな施設の軽微な補修に取り組むことにより、計画的に農業用施設の保全管理を実施。
- 東陶器小学校5年生約100名の農業体験を地域農家の指導により年間通じて実施し、子どもの地域農業への理解促進、交流が進むとともに、遊休農地の発生防止にも寄与している。





ながみね

### 長峰地域農空間保全協議会（堺市）

- 長峰地区は、H13年度にほ場整備事業が完了し、土地改良区を中心に、農地や水路、農道等の保安全管理を進めてきたが、近年、農業従事者の高齢化や後継者の減少により、担い手の負担が増大し、継続的な活動に支障が生じていた。
- H19年度に長峰地域農空間保全協議会が設立され、自治会や小学校等、地域住民と連携した地域資源の保安全管理が図られている。

### 【地区概要】

取組面積	59.58ha	[田46.76ha	畑12.82ha]	
農業用施設	開水路16.1km	パイプライン3.8km	農道 7.7km	ため池 2箇所
主な構成員	土地改良区、小学校、自治会、農協支所支部長会			
交付金	1,659千円（農地維持） 1,927千円（資源向上）			

### 活動開始前の状況や課題

- H13年度にほ場整備が完了し、営農組合による農作業受委託も活発に行われ、ブランド米「上神谷(にわだに)米」を代表とする稲作中心の営農が行われていたが、後継者や担い手の減少がすすみ、持続的な農地・農業用施設の管理が課題
- ほ場整備の完了から約15年が経過し、一部施設で不具合・老朽化が生じ、施設の軽微な補修・長寿命化が課題



### 取組内容

- 草刈りや泥上げに加え、農道舗装の補修や水路の目地、ポンプ補修等を交付金を活用して実施し、施設の長寿命化を図っている。
- 地元小学校(上神谷小学校)との年間通じた農業体験等の交流活動や、周辺住民と共同して彼岸花の植栽等の農村環境保全活動にも積極的に取り組んでいる。



### 取組の効果

- 土地改良区が中心となって、きめ細やかな施設の軽微な補修に取り組むことにより、計画的に農業用施設の保安全管理を実施。
- 上神谷小学校各学年の農業体験や収穫祭を地域農家と地域住民の共同により年間通じて実施し、彼岸花等の景観作物の植栽等による農村環境保全活動にも取り組み、地域ぐるみの農空間保全が図られている。



# 都市住民との連携による農空間保全・適切な施設管理と農地中間管理事業を活用した担い手農家への農地集積

はちがみね

## 鉢ヶ峯地域農空間保全協議会（堺市）

- 鉢ヶ峯地区では、土地改良区を中心に農地や水路、農道等の保全管理を進めてきたが、近年、農業従事者の高齢化や後継者の減少により、担い手の負担が増大し、継続的な活動に支障が生じていた。
- H19年度に鉢ヶ峯地域農空間保全協議会が設立され、関係自治会と土地改良区に加え、都市住民で構成されるボランティア組織「農作業応援団」等、地域住民・都市住民との連携による農地保全や計画的な施設の保全管理が進むとともに、H26年度からは農地中間管理事業を活用した担い手への農地集積にも取り組み、交付金を活用した地域資源保全が図られている。

### 【地区概要】

### 資源向上取組地区

取組面積	28.34ha	[田16.78ha	畑11.56ha]	
農業用施設	開水路8.2km	パイプライン2.3km	農道 5.0km	ため池 3箇所
主な構成員	自治会、土地改良区、農協、農作業応援団、水利組合			
交付金	734千円（農地維持） 807千円（資源向上）			

### 活動開始前の状況や課題

- ほ場整備の完了後、営農組合が仲介役となって農作業受委託が行われる等、盛んに営農が行われていたが、後継者や担い手の減少が進み、持続的な農地・農業用施設の管理が課題
- H4年度にほ場整備が完了し、一部施設で不具合が生じ、施設の軽微な補修・長寿命化が課題



### 取組内容

- 溝さらえや草刈りに加え、農道の路面補修や水路附帯施設の補修等を交付金を活用して実施し、施設の長寿命化を図っている。
- 都市住民による「農作業応援団」を組織して一連の農作業を共同で行うとともに、寄せ植え等のイベントや近隣幼稚園等の農業体験も行い、都市農村交流にも積極的に取り組んでいる。



### 取組の効果

- 土地改良区が中心となってきめ細やかな施設の軽微な補修に取り組むことにより、計画的に農業用施設の保全管理を実施。農地中間管理事業を活用した大規模農家への農地利用集積も進んでいる。
- 農作業応援団との共同活動と、地元農家が行う農業体験イベントや摘み取り園、直売所運営が盛んに行われ、地域住民や都市住民との交流、理解促進が進んでいる。





こうのやま

神於山地区農空間保全協議会（岸和田市）

- 神於山地区は、H14年度にほ場整備事業が完了し、土地改良区を中心に、農地や水路、農道等の保全管理をすすめてきたが、近年、後継者の減少により、担い手の負担が増大し、継続的な活動に支障が生じていた。
- H19年度に神於山地区農空間保全協議会が設立され、自治会等、地域住民と連携した地域資源の保全管理が図られているとともに、NPO法人とも連携し、農村交流活動が行われている。

【地区概要】

取組面積	55.75ha	[田9.25ha	畑46.50ha]	
農業用施設	開水路2.9km	パイプライン15.3km	農道 9.9km	ため池 5箇所
主な構成員	自治会、水利組合、土地改良区、生き生き農業応援団、農協			
交付金	1,207千円（農地維持） 1,113千円（資源向上）			

活動開始前の状況や課題

- H14年度にほ場整備が完了し、地元農家による営農が行われていたが、一部で遊休農地が発生したり、後継者の不足、担い手の減少等、今後の持続的な農地・農業用施設の管理が課題
- 地区内の一部農業用施設で不具合・老朽化が生じ、施設の軽微な補修・長寿命化が課題



取組内容

- 溝さらえや草刈りに加え、農道の路面補修や水路附帯施設の補修等を交付金を活用して実施し、施設の長寿命化を図っている。
- コスモス園を開設し、農村環境保全活動に取り組むとともに、地区内で遊休農地を活用した営農および都市農村交流に取り組む農事組合法人と連携し、交流活動を行っている。



取組の効果

- 土地改良区が中心となってきめ細やかな施設の軽微な補修に取り組むことにより、計画的に農業用施設の保全管理を実施。
- 景観作物の植栽等による農村環境保全活動による地域住民との交流が図られているとともに、新規就農者等、若手農家の参入も進んでおり、農事組合法人、NPO法人等多様な担い手の参画により、交付金を活用した農空間の保全が期待できる。



# 地域住民との連携による農空間保全

## 資源向上取組地区

よこやま

### 横山地区農空間保全協議会（和泉市）

- 横山地区は、平成19年度に横山土地改良区が設立され、土地改良区を中心に農地や水路、農道等の保安全管理を進めてきたが、近年、後継者の減少により、担い手の負担が増大し、継続的な活動に支障が生じていた。
- 多面的機能支払交付金を活用するため、平成27年度に新たに横山地区農空間保全協議会を設立し、横山地区の地域資源の適切な保安全管理と健全な農空間が継続して育むことが出来るようになった。

#### 【地区概要】

取組面積	36.80ha	[田0.00ha	畑36.80ha]
農業用施設	開水路 12.5km	農道 11.5km	ため池 10箇所
主な構成員	土地改良区、小学校、自治会		
交付金	736千円（農地維持） 613千円（資源向上）		

#### 活動開始前の状況や課題

- 地元農家による営農が行われていたが、後継者の不足、担い手の減少等、今後の持続的な農地・農業用施設の管理が課題。
- 整備完了後から約10年近くが経過し、一部施設で不具合・老朽化が生じ、施設の軽微な補修・長寿命化が課題。



#### 取組内容

- 協議会内にある4つの農業団地を基本単位として、草刈、泥上げ等の維持管理を行ってきたが、令和2年度から水路、農道等の長寿命化の活動にも着手している。
- 横山小学校と連携し、農業団地で生産されている「いちご」ハウスでの農業体験を行い、地域との交流活動にも取り組んでいる。



#### 取組の効果

- 土地改良区が中心となって、きめ細やかな施設の軽微な補修に取り組むことにより、計画的に農業用施設の保安全管理を実施。
- 横山小学校の小学生による農業体験を実施することにより、地域の農産物にふれることで、こどもの地域農業への理解促進に寄与している。



こつみ

木積地区農空間保全協議会（貝塚市）

- 木積地区は、ほ場整備事業完了以降、土地改良区を中心に農地や水路、農道等の保安全管理を進めてきたが、近年、後継者の減少により、担い手の負担が増大し、継続的な活動に支障が生じていた。
- H19年度に木積地区農空間保全協議会が設立され、自治会や小学校等、地域住民と連携した地域資源の保安全管理を進むとともに、農地中間管理事業も活用し、新規就農者や企業等への農地集積にも積極的に取り組み、多様な担い手による地域資源保全が図られている。

【地区概要】

取組面積	28.05ha	[田8.88ha	畑19.17ha]	
農業用施設	開水路 3.0km	パイプライン 3.3km	農道 3.6km	ため池 2箇所
主な構成員	自治会、水利組合、土地改良区、農協、小学校			
交付金	649千円（農地維持） 774千円（資源向上）			

活動開始前の状況や課題

- H13年度にほ場整備が完了したが一部で遊休農地が発生したり、後継者・担い手の減少等、今後の持続的な農地・農業用施設管理や営農環境の悪化が懸念されていた
- 一部施設で不具合・老朽化が生じ、施設の軽微な補修・長寿命化が課題となっていた



取組内容

- 溝さらえや草刈りに加え、ため池法面の補修や水路・附帯施設の保守点検や補修等を交付金を活用して直営施工により実施し、施設の長寿命化を図っている。
- 地元小学校（葛城小学校）の体験学習やNPO法人と連携した都市住民向けの農業体験、コスモス、菜の花等景観作物の植栽等、農村環境保全活動や交流活動に積極的に取り組んでいる。



取組の効果

- 構成員の直営施工で施設の軽微な補修に取り組むことにより、より効率的に交付金を活用して農業用施設が保安全管理されている。
- 農村環境保全活動や都市農村交流活動に積極的に取り組むことにより地域住民・都市住民の参画・理解が促進されている。
- 農地中間管理事業も活用し、新規就農者等の若手農家や企業、NPO法人等が地区に参入し、多様な担い手による農空間保全が図られている。





にしいはら

西台原地区農空間保全協議会（阪南市）

- 西台原地区は、昭和26年に土地改良区が設立され、水稻を中心に地域特産の水ナス、玉ネギ、キャベツなどが生産されている。当該地区は、8つのため池と井関川を水源とし、良好な生産環境が整っているが、後継者が不足しており、施設も老朽が目立っている。
- H27年度に西台原地区農空間保全協議会が設立され、多面的機能支払交付金の取り組みにより、自治会等、地域住民と連携した地域資源の保全管理が図られている。

【地区概要】	
取組面積	30.50ha [田27.48ha 畑3.02ha]
農業用施設	開水路25.1km      パイプライン0km 農道      0km      ため池      8箇所
主な構成員	自治会、土地改良区、J A
交付金	224千円（農地維持） 660千円（資源向上）

活動開始前の状況や課題

- 高齢化や後継者不足により、ため池等の草刈りなど、維持活動に支障が生じている
- 農空間保全のため、農業者と地域住民との協力体制の整備
- 土地改良事業で整備された農業施設が少ないため、一部で老朽化が進み、その補修が負担となっている



取組内容

- 農業用ため池及び、地区内の自治会財産のため池の草刈りなどの保全活動
- 水路などの草刈りや水路の長寿命化対策
- 地域の幼稚園と連携し、レンゲなどの植栽活動
- 蓮池ハザードマップの作成、ワークショップへの参加



取組の効果

- 農業者（土地改良区）と非農業者（自治会）の協力による地域環境の保全体制の構築
- 老朽化した施設の軽微な補修による保全管理
- 草刈りや泥上げなどの活動による保全管理
- レンゲ等の植栽活動による地域との交流を通じた農村文化の継承



# 地域住民との連携による農空間保全

## 資源向上取組地区

きたなか

### 北中地区農空間保全協議会（泉佐野市）

- 北中地区は、市街化区域内に多くの農地を有しており、宅地と共存しながら営農を行ってきた。しかし、近年は後継者の減少や、宅地開発等により、担い手の負担が増大し、継続的な活動に支障が生じていた。
- 平成27年度に北中地区農空間保全協議会を設立し、土地改良区、近隣小学校が連携し、地域資源の保全を図っている。

#### 【地区概要】

取組面積	30.00ha	[田30.00ha	畑0.00ha]	
農業用施設	開水路15.0km	パイプライン0.2km	農道 1.5km	ため池 20箇所
主な構成員	土地改良区、小学校			
交付金	900千円（農地維持） 1,099千円（資源向上）			

#### 活動開始前の状況や課題

- 市街化区域内に多くの農地を有し、宅地と共存しながら営農を行ってきたが、後継者不足による担い手の減少により、地域資源の保全に係る負担が増大し、持続的な農地・農業用施設の管理が課題となっている。
- 農業用施設の老朽化が進み、施設の補修・長寿命化が課題。



#### 取組内容

- ため池や水路の草刈り、水路浚渫など交付金を活用して実施し、農地や施設の維持管理を行っている。
- 農道補修等を交付金を活用して実施し、施設の長寿命化を図っている。
- 学校教育と連携し、地域の小学校や大阪市内の小学校の子どもたちを対象に農作業や収穫体験に取り組み、かつ都市との交流も進めている。



#### 取組の効果

- 土地改良区が中心となって施設の点検や補修を行い、計画的に農業用施設の保全管理が実施出来ている。
- 小学校と連携し、子どもたちに作物を植え、育て、収穫するという一連の作業を体験、身近にある農空間の大切さを認識させることによって、地域住民の理解促進、また地域住民が交流する機会の創出に寄与している。



# 地域住民との連携による農空間保全

## 資源向上取組地区

ひねの

### 日根野地区農空間保全協議会（泉佐野市）

- 本地区は水資源に恵まれ、良質な農作物を生産してきたが、農業用施設の老朽化が進み、また後継者不足等担い手の減少による負担の増大によって、継続的な活動に支障が生じていた。
- 平成27年度に日根野地区農空間保全協議会を設立し、地域住民と連携した地域資源の保全管理に取り組んでいる。

#### 【地区概要】

取組面積	72.08ha [田72.08ha 畑0.00ha]
農業用施設	開水路9.8km 農道 6.7km ため池 12箇所
主な構成員	土地改良区、自治会
交付金	2,162千円（農地維持） 2,000千円（資源向上）

#### 活動開始前の状況や課題

- 地元農家による営農が行われていたが、一部で遊休農地が発生したり、後継者の不足、担い手の減少等、今後の持続的な農地・農業用施設の管理が課題
- 農業用施設の不具合・老朽化が生じ、施設の軽微な補修・長寿命化が課題



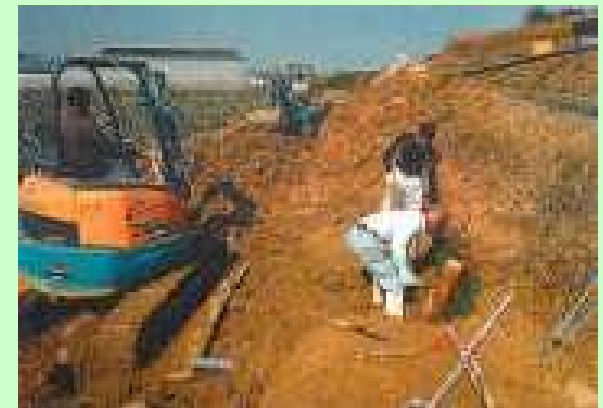
#### 取組内容

- ため池や水路の草刈り、水路浚渫など交付金を活用して実施し、農地や施設の維持管理を行っている。
- 農道補修等を交付金を活用して実施し、施設の長寿命化を図っている。
- コスモスを植栽し、地地域住民との交流や遊休農地の発生防止活動に取り組んでいる。



#### 取組の効果

- 土地改良区が中心となって各集落の状況を集約し、きめ細やかな施設の軽微な補修に取り組むことにより、計画的に農業用施設の保全管理を実施。
- コスモスの植栽を通じた地域交流・農村環境保全活動にも取り組み、地域ぐるみの農空間保全が図られている。





# 地域住民との連携による農空間保全

## 資源向上取組地区

いなくらいけ

### 稲倉池地区農空間保全協議会（泉佐野市）

- 稲倉池地区は、泉佐野市の北西部に位置し、市街化区域内に多くの農地を有している。稲倉池からパイプラインにより送水し、水稻の他にキャベツ、玉ねぎ、とうもろこし、水茄子等を栽培している。
- 平成28年度に稲倉池地区農空間保全協議会を設立し、土地改良区、近隣小学校が連携し、ため池や水路等の地域資源の保全を図っている。

### 【地区概要】

取組面積	36.0ha	[田36.0ha	畑0.00ha]
農業用施設	開水路11.5km 農道 2.6km	パイプライン2.7km ため池	6箇所
主な構成員	土地改良区、小学校		
交付金	1,080千円（農地維持） 1,319千円（資源向上）		

### 活動開始前の状況や課題

- 市街化区域内に多くの農地を有しているため、宅地と共存しながら営農を行ってきたが、後継者不足による担い手の減少により、地域資源の保全に係る負担が増大し、持続的な農地・農業用施設の管理が課題となっている。
- 農業用施設の老朽化が進み、施設の補修・長寿命化が課題。



### 取組内容

- ため池や水路の草刈り、水路浚渫など交付金を活用して実施し、農地や施設の維持管理を行っている。
- 農道補修等を交付金を活用して実施し、施設の長寿命化を図っている。
- 学校教育と連携し、地域の小学校（第一小学校）の子どもたちを対象に、農作業や収穫体験に取り組んでいる。



### 取組の効果

- 土地改良区が中心となって施設の点検や補修を行い、計画的に農業用施設の保全管理が実施出来ている。
- 小学校と連携し、子どもたちに作物を植え、育て、収穫するという一連の作業を体験、身近にある農空間の大切さを認識させることによって、地域住民の理解促進、また地域住民が交流する機会の創出に寄与している。



# 地域住民との連携による農空間保全

## 資源向上取組地区

やすまつ

安松地区農空間保全協議会（泉佐野市）

- 安松地区は、泉佐野市の南西部に位置する市街化区域を含む平坦部であり、水稻と共にキャベツ、玉ねぎ等の栽培が行われている。
- 平成28年度に安松地区農空間保全協議会を設立し、土地改良区、近隣小学校が連携し、ため池や水路等の地域資源の保全を図っている。

### 【地区概要】

取組面積	18.0ha	[田18.00ha	畑0.00ha]		
農業用施設	開水路6.8km	パイプライン1km	農道 2.3km	ため池	3箇所
主な構成員	土地改良区、安松町会、小学校				
交付金	540千円（農地維持） 659千円（資源向上）				

### 活動開始前の状況や課題

- 各地区の水利役員等が中心となって、水路等の農業用施設の維持管理に努めてきたが、後継者不足による高齢化等により負担が増大し、持続的な農地・農業用施設の管理が課題となっている。
- 農業用施設の老朽化が進み、施設の補修・長寿命化が課題。



### 取組内容

- ため池や水路の草刈り、水路浚渫など交付金を活用して実施し、農地や施設の維持管理を行っている。
- 農道補修等を交付金を活用して実施し、施設の長寿命化を図っている。
- 学校教育と連携し、地域の小学校（末広小学校）の子どもたちを対象に、農作業や収穫体験に取り組んでいる。



### 取組の効果

- 土地改良区が中心となって施設の点検や補修を行い、計画的に農業用施設の保全管理が実施出来ている。
- 小学校と連携し、子どもたちに作物を植え、育て、収穫するという一連の作業を体験、身近にある農空間の大切さを認識させることによって、地域住民の理解促進、また地域住民が交流する機会の創出に寄与している。

